

学生有志が「フェアトレード」

途上国の生産者を支援

東洋大学国際地域学部（板倉町）の学生有志が十九日から、発展途上国の生産者を支援するフェアトレードター（SC）を始め（公正な貿易）の取りた。



東洋大学「お買い物で国際協力2008」

途上国の生産者の生活が成り立つような価格で商品を仕入れ、販売する取り組み。商品は、「ノクシカタ」と呼ばれる手縫い刺しゅうの小物入れ（バンガラデシユ製）やヤギ革の小銭入れ（インド製）などの雑貨、コーヒー豆といった食品など十数カ国の約百種類。売り上げの一部が野生のトラの保護に、縦じま柄のバッグで、阪神タイガースが公認して話題となった「トラカムバッグ」（ネパール製）もあ

授の呼び掛けで、学生約二十人が参加。二桁生の山崎めぐみさんは、「国際地域学部」の学生として、この夏に何かしておきたかった。思ったより反響もよく、最終日まで頑張っていた。

同学部は二〇〇九年度に板倉町から都内へ移転するが、子島准教授は「文科系の他学部と一緒にいるので、参加者を増やして四年目の来年も、館林での販売を継続したい」と話している。

買い物客に商品の説明をする
東洋大の学生部 館林中で

同学部の子島准教授で、同SC一階の憩い広場で午前十時―午後九時に行つた。

（川口晋介）